

桃山学院教育大学「研究紀要第6号」の発刊にあたって

学長 中野 瑞彦

桃山学院教育大学は2018年度に開学し、2023年度で6年目を迎えました。本学は教育方針として、人間的な成長・発達を実現するための人間教育を掲げ、次世代を担う学生の教員養成に向けて全力を注いでいます。これとともに、教鞭を執る教員自らが日々研鑽に努め、研究を重ねてきました。本学の「研究紀要」はこの研究成果の集大成であり、今回で第6号となります。本号には、論文14本、研究ノート2本、資料1本、計17本が掲載されています。その分野は、学校教育を中心に、特別支援、就労支援、スポーツ連携、言語分析、リーダーシップ教育、インターンシップ教育など多岐にわたっています。こうした知見が相互に浸透し合い、より高いレベルに高まれば、本学の研究はさらに充実したものとなるでしょう。

大学教育においては、理論と実践の融合が重要です。実践は理論に支えられ、理論は実践に基づいて構築されなくては意味がありません。特に、学校現場、子どもたちの生活は、日々変化しています。毎日同じということはありません。従って、教員の対応も常に応用が求められます。しかし、その場の対応ばかりに気を取られていると、本質的な部分を見落としてしまう危険性があります。現場を預かる教育者にとって重要なことは、日々の事象に流されることなくその本質を見定め、しかるべき対応を図ることです。この対応にはそれまでの経験に加えて、研究に基づいた理論的な裏付けが必要です。その意味において、教員による研究活動は自らを向上させるためだけでなく、他者を啓発し組織全体ひいては社会全体を活性化することが期待できます。

今後とも桃山学院教育大学の研究活動が更に発展し、その成果が本学の教育を通じて社会に還元されることを願ってやみません。